

# 趣旨説明

---

2024.11.18 KOOU研究データ管理・利活用WG 推進連絡会情報交換会 @JR博多シティ



# 研究データ管理に係る政策等

世界

G8科学大臣及びアカデミー  
会長会合  
(2013)

科学研究データのオープン化を確約

「研究データの権利に関する  
ソルボンヌ宣言」にRU11が署名  
研究データの権利に関するサミット(2020.1)

- 研究データは、可能な限りオープンに共有され、再利用されるべき
- 私たちの大学とその研究者が可能な限りデータを共有することを奨励する

UNESCO「オープンサイエンス  
に関する勧告」を採択  
(2021.11.25)

オープンサイエンスの定義、  
国際的基準の概要を示し、OS  
運用を実現する一連の行動を  
提案

G7広島 首脳コミュニケ  
科学技术大臣コミュニケ  
(2023.5)

「1. 科学研究における自由と包摂性の尊重及びオープン・サイエンスの推進」

- FAIR原則 に沿った、科学的知識・研究データ・研究成果の公平な普及によるOSの拡大
- 学術出版物及び科学データへの即時のオープンで公共的なアクセス
- OSの実践にインセンティブと報酬を与える研究評価アプローチ

内閣府

第6期科学技術・イノベーション基本計画(2021.3閣議決定)

オープンサイエンス推進のための、研究データの管理・利活用を目標・指標に掲げる

- 公募型の研究資金の新規公募分において、2023年度までに、DMPおよびこれと連動したメタデータの付与を行う仕組みの導入率100%
- 2025年までに、データポリシーの策定率100%

統合イノベーション戦略2021 (2021.6閣議決定)

公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方(2021.4決定)

基本計画を受けて、具体的な取組方針を策定

2024年度科研費から  
全種目で、交付申請時に  
DMP作成が義務化

「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」(2024.2統合イノベーション戦略推進会議決定)

- 学術論文及び根拠データの即時OA

文科省・関係団体

学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)  
文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会(2016.2)

- 論文及び論文のエビデンスとしての研究データは原則公開
- 国・大学等・学協会・助成機関等に求められる役割を提示

学術機関における研究データ管理に関する提言(2019.5)  
大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン(2021.7)  
大学ICT推進協議会(AXIES)

提言：オープンサイエンスの深化と推進に向けて  
日本学術会議オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会(2020.6)

オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方について(審議まとめ)  
文部科学省 科学技術・学術審議会情報委員会(2023.1)



# オープンサイエンスの推進

オープンサイエンス = オープンアクセス + オープンデータ



知の創出、新たな価値



研究プロセスの透明化

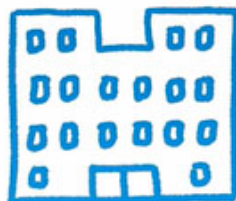


研究成果の幅広い活用

オープンイノベーション



国



資金配分機関



大学・研究機関



研究者

オープンサイエンスの推進体制の構築

# 大学に求められる役割・責務

公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方(内閣府 2021.4決定)

## ■ データポリシーの策定

- 2025年度までにデータポリシーを策定する
- 特に公開・共有の基準については、研究者が判断に迷わないよう具体的に定めることが望ましい

## ■ 機関リポジトリへの研究データの収載と研究データへのメタデータの付与の推進

- 機関による管理対象データへのメタデータ付与、研究者によるリポジトリへのデータ収載

## ■ 研究データマネジメント人材・支援体制の整備及び評価

- 研究者がデータポリシー等に則って研究データ管理を行うための環境や支援体制等の整備
- 研究データマネジメント人材の育成・確保
- 研究データの管理・利活用に対する各部署における役割の明確化、身近に相談できる窓口の設置等
- 人材育成のための教育プログラム提供、評価体系導入

## ■ セキュリティの確保、関係諸法令の遵守等

- 信頼性の高いストレージの整備、継続的運用の保障
- 関係諸法令等との整合性のとれた機関リポジトリの整備

# 適切な研究データ管理を行うことのメリット

## 研究の 効率化

- 適切な研究データ管理による、円滑で効率的な研究遂行  
→研究時間や資源の節約
- セキュリティやデータ消失のリスク回避

## 助成金獲得, 共同研究推進

- 適切なDMPの作成・実施により、資金提供元の要件を充たす
- ポリシーとこれに従った適切な研究データ管理の実施により、国内外の研究機関や産業界との共同研究の要件を充たす

## 研究倫理の 確保

- 10年保存、根拠データの開示への対応
- 研究の再現性の確立、研究データや研究記録の正確性・完全性・信頼性の保証

# 研究データ管理スタートアップ支援事業

NIIが中核となり実施している

「研究データ管理スタートアップ支援事業」(2022-2026年度)に  
2024年度より、**拠点大学**として九州大学が参加

- 文部科学省「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」の下に展開されている事業
- 拠点大学が中心となって、地域の大学における研究データの管理・利活用の支援体制構築等をスタートアップ支援する
- 2023年度開始の名古屋大学・金沢大学に続き、2024年度から、九州大学も委託を受け参加
- 予算：各拠点大学に、毎年度2,000万円上限で配分
- 九州地区では、まずは国立大学を中心に取り組みを進め、その成果を公私立大学にも拡大していく  
→九州・沖縄オープンユニバーシティ(KOOU)の枠組みの活用

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業（2022-2026年度）の下に展開

## 研究データ管理スタートアップ支援事業

研究者の行動変容を促す「研究DX」を推進するため、研究データポリシー策定、研究データマネジメント体制整備といった、研究データ管理のノウハウを中核機関群のもとで構築し、各地域において核となる拠点大学を中心に、各大学・研究機関等の組織に伝搬させていく取り組みです。

### 中核機関群

- 司令塔機能を果たし、相談・連絡やデータの解析等を行う。

#### 中核機関群での取り組み

- 研究データ管理のノウハウ構築
- システム提供によるモデル大学支援
- コミュニティ活動支援
- 相談結果のフィードバック
- 他大学の情報共有



- 迅速な相談、密な連携
- 現状課題の共有

### 各地域における核となる拠点大学群

- 核となる拠点大学を全国に作り支援。各拠点大学が地域の多様な大学を支援。
- 潜在需要が想定される大学も含め、コミュニティを広げていく。

#### 想定されるコミュニティ内での取り組み

- 課題抽出
- データマネジメント体制の構築
- データポリシーの構築
- スキル・ノウハウの蓄積
- 他大学の情報共有



### 実施状況

#### 今年度

- 本事業は、ルール・ガイドライン整備チーム（リーダー：名古屋大学）が統括する
  - 地域ごとに支援機関と複数の被支援機関による支援の仕組み（コンソーシアム体）を設ける
  - 支援機関は、令和5年度は名古屋大学（東海地域）、金沢大学（北陸地域）とする
- 名古屋大学：**  
「研究データエコシステム東海コンソーシアム」を発足 <正会員8機関、準会員4機関が加盟済み>  
<https://icts.nagoya-u.ac.jp/ja/information/event/2023-07-21-consortium.html>
- 金沢大学：**  
学内に研究データエコシステム整備WGを設置し、データポリシーの見直しとデータ利活用のためのガイドライン等の整備を実施

#### 来年度以降

- 対象地域の拡大を目指す



# 九州・沖縄オープンユニバーシティ(KOOU) 研究データ管理・利活用WG

WGの担当窓口：九州大学データ駆動イノベーション推進本部 研究データ管理支援部門  
(事務担当：九州大学附属図書館 図書館DX支援室)

## ■ 目的

KOOU参加大学の研究データ管理・利活用に係る取り組みを推進することで、九州・沖縄地域全体の研究力を強化し、社会課題の解決、経済の発展、人材育成に貢献する。

## ■ 活動体制

- **【WG】** 研究データの管理・利活用に係る取り組みの推進及び本WGの活動についての議論を行う理事又はその代理を務める者・・・9大学9名
- **【推進連絡会】** 研究データ管理・利活用に係る実質的な情報交換や議論、各種活動を行う研究データ管理・利活用の業務に従事する教職員(教員、URA、事務職員等)・・・9大学19名

## ■ 活動内容(予定)

- 2024年度:各大学の状況把握・ニーズ確認を行うとともに、部署間の連携を深め機運を高めるフェーズ
  - ✓ 各大学の担当者を集めた情報交換会の実施、国内外の先進大学等の訪問調査、シンポジウムの開催
- 実施結果を踏まえ、WGにおいて2025～2026年度の重点取り組み事項を定める。推進連絡会を中心とした活動により、各大学の研究データ管理・利活用の体制・環境整備に係るスタートアップを図る
- 2024～2026年度の活動:研究データ管理スタートアップ支援事業の委託事業費を活用
- 2027年度以降については、WGの継続の必要性も含め、WGにおいて議論する

# 本日の流れ

---

13:30-13:50 (20分)	趣旨説明(九大・冨浦) 海外の事例紹介(九大・石田)
13:50-15:10 (80分)	各大学からの状況説明 (説明5分+質疑応答3分)×9大学
(休憩 20分)	
15:30-16:30 (60分)	全体討議 ・ 各大学から出された課題について深掘り ・ WGで取り組みたい内容について議論
16:30-16:45 (15分)	まとめ